

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子

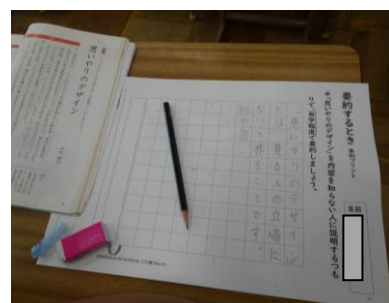
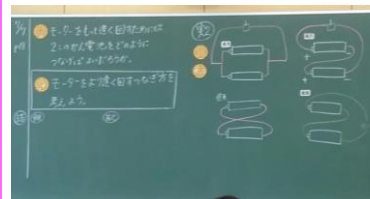


<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

教室の窓から ある日の授業風景 No.2

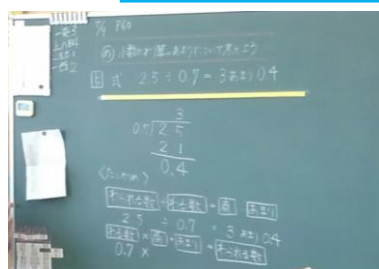


4年2組 理科の学習。モーターを強く回す条件について実験から導き出していました。



4年1組 国語の要約の学習。文章を短くまとめることは、「読むこと」だけでなく「書くこと」の学習にもつながります。

5年1組 小数の割り算です。小数点はどこに来るでしょうか。あまりの小数点の位置は？



5年2組 家庭科で裁縫の授業です。難しい本返し縫いに挑戦。さて、上手に縫えたでしょうか。



## ごみが一つ落ちていたら…

ごみの落ちていないきれいな場所に、最初にごみを落とすのは心理的な抵抗が大きいものです。洗車した直後は、水たまりをよけて運転するのと同じ心境なのでしょう。きれいな環境の中では、人間の理性が働くものです。ところが、すでにごみが落ちていた場所では、次にごみを落とすときの心理的敷居は低くなります。例えば教室でごみを落として叱られても、「あいつもやっているじゃないか。なんで僕だけ叱るんだ!」と言い返しができるからです。



ある中学の合唱指導で有名な先生の話です（直接知っている方ではありませんが）。新しい学校に赴任すると、そこは校舎がひどく荒れていたそうです。蛍光灯がつかなくても取り換える人がいない。掲示物も破れたままだったそうです。赴任して三か月間、その先生は毎日、校舎内の修理をしていたといいます。生徒の中には、その先生のことを用務員さんと勘違いする人もいたほどでした。しかし、一年後には学校は落ち着き、三年後にはなんと合唱部が全国大会への出場をはたすようになったそうです。「環境が心を育て、生徒に努力することの大切さを教えた」と、その先生は語っているのです。

かつて担任したクラスでは、子供たちによくこんな問いを出しました。「何もしない車」と「窓一枚だけひびを入れた車」を、そのまま置いておくとどうなると思いますか？

これは実際に試された実験内容で、『ブロークン・ウィンドウズ理論』と呼ばれるものです。スタンフォード大学のフィリップ・シンバルト教授が行った実験によると、普通の車を市街地に一週間放置しても何も起きなかったのですが、次に同じ車で窓ガラスを一枚だけ割ってそのまま市街地に一週間放置しておく、他の割れていない窓も割られ、金銭になるであろう部品もほぼすべて盗まれたという結果がでたそうです。これは犯罪学よく紹介される内容で、以下のステップで導き出された結果と考えられています。

- 1 窓が割れているまま放置されている。
- 2 誰も関心、管理していない状態に見えるため、何をしてもよいと感じ始め、一部の人のポイ捨てやいたずらがその周りに始まる。
- 3 その状態を見て、さらに「何をしても良い」という雰囲気さがさらに大きくなり、何でもやって良いという行動が増大し成長する。



人間は一枚目の割れていない窓を割ることに心理的な抵抗を強く感じるのですが、割れている窓が隣にあれば、その隣を割ることに心理的抵抗感が弱くなるというのです。

1994年にニューヨークの治安回復を公約に当選したジュリアーニ市長は、「家族連れにも安心な街にする」と宣言し、この理論を応用しての治安対策に乗り出しました。ニューヨーク市は1980年代からアメリカ有数の犯罪多発都市となっていたのですが、ニューヨーク市警の協力によって、地下鉄などの落書き、空き缶の投げ捨て、未成年者の喫煙、万引き、歩行者の信号無視行為など比較的軽微なことから徹底して取り締まったところ、数年後には凶悪犯罪までもが大幅に減少したそうです。かつては「恐怖の地下鉄」だったものも、今では市民の安心できる足となっているようです。日本でも、駐車違反の徹底的な取り締まりなどによるすすき野環境浄化総合対策や、園内の徹底された環境整備などのTDRの取組などが成功を収めている例だといわれています。



さて、これは家庭でも学校でも同じことが言えるのではないのでしょうか。ふと歩いているときにごみが一つ落ちていたとしたら……。そのごみを拾える子に育てるのか、黙って通り過ぎる子にするのか、あるいは同調してごみを捨てる子にしてしまうのか。靴箱が乱れていたならどうするか、悪いことをしている友達を見かけたらどうするか、無駄口をきいて授業を妨げる仲間がいたらどうするか……。たった一人、されど一人。その一人を育てるのが、私たち大人の使命なのではないでしょうか。現象をつぶすことは簡単（ただ叱りつけばいいのです）、でも育てなければ意味がありません。その場の声かけ一つで、働きかける指導一つで、子供はどう動いたらいいのかを学んでいきます。**『百田小の子は、みな我が子』**を忘れずに、これからも力を合わせて百田小教育を進めていきましょう。学校では、今週から児童会の生活目標で、「無言清掃」に取り組んでいます。